

スウェーデン王立工科大学ハンス・ウェストルンド先生 (Prof. Hans Westlund) の講演会

■ 日時：2026 年 3 月 17 日（火）14 時～16 時

■ 場所：「E.U. Regional Commons（ひめテラス）1 階 NP 地域交流ルーム」

<https://www.ehime-u.ac.jp/about/himeterrace/>

■ 講演者：ハンス・ウェストルンド先生 (Prof. Hans Westlund)

・スウェーデン王立工科大学 (KTH) 教授 (Professor in Urban and Regional Studies at the KTH Royal Institute of Technology)

<https://www.kth.se/profile/hanswes?l=en>

・イェンシェピング国際ビジネススクール教授 (Professor in Entrepreneurship at the Jönköping University)

<https://ju.se/en/personinfo.html?id=1664>

■ 講演タイトル：

The post-urban hypothesis and its implications for marginal and disaster-stricken areas: the role of agency, entrepreneurship and (social) innovation

（ポスト都市仮説と周縁・被災地域への示唆：主体性、起業家精神、（社会的）イノベーションの役割）

■ 講演内容：

The presentation takes its starting point in the current global uncertainties and the post-urban development in the light of the end of globalization. The rest of the talk has its focus on peripheries and their role in the post-urban world, with the changing role of technology development as a decisive factor. Natural disasters in peripheral areas means special challenges. Which factors determine whether those affected will leave or stay? What determines whether newcomers will be attracted to these areas? What can external actors (incl. government) do? A central question is to what extent peripheral places can “borrow size” from city-regions and connect to the latent supply that is there. It is about building attractiveness through improving access to natural and man-made amenities and creating new ones. What are the right combinations of factors and amenities? Agency, entrepreneurship and innovation are decisive policy instruments. (本発表は、グローバル化の終焉を背景とした現在の世界的不安定性とポストアーバン開発を起点とする。それに続く議論では、周辺地域とポストアーバン世界におけるそれら地域の役割に焦点を当て、決定的要因として技術開発の変容する役割を論じる。周辺地域における自然災害は特別な課題を意味する。被災者が離れるか留まるかを決定する要因は何か？新規移住者がこれらの地域に惹きつけられる要因は何か。外部主体（政府を含む）に何ができるのか。核心的な問いは、周辺地域が都市圏から「規模を借り受け」、そこに存在する潜在的な供給源とどの程度接続できるかである。自然環境や人工的アメニティへのアクセス改善、新たなアメニティ創出を通じて魅力を構築することが重要だ。適切な要素とアメニティの組み合わせとは何か。主体性、起業家精神、イノベーションが決定的な政策手段となる。)

■ 言語：英語（日本語の通訳付きです。）

■ 参加無料（定員 50 名）

どなたでもご参加頂けますが、人数把握のため、参加希望者は 3 月 6 日（金） までに羽鳥 (hatori.tsuyoshi.mz 【@】 ehime-u.ac.jp) までご連絡ください。

■ 主催・共催

- ・主催：愛媛大学社会共創学部 環境デザイン学科
- ・共催：愛媛地理学会／過疎地域研究会（Marginal Area Research Group; MARG）

■ 担当

愛媛大学社会共創学部 環境デザイン学科 教授 羽鳥剛史

Email: hatori.tsuyoshi.mz 【@】 ehime-u.ac.jp

■ ハンス・ウェストルンド先生のご略歴

スウェーデン王立工科大学（KTH）教授、イェンシェピング国際ビジネススクール教授、スロベニア・リュブリャナの開発戦略分析研究所の客員教授、中国の天津大学の客員教授、西部地域科学協会のフェロー。1992 年、スウェーデン・ウメオ大学にて経済史の博士号を取得。東京大学、パリの Agroparistech、中国科学院（北京）で客員教授を務めた。著書『ポスト都市の世界』（ティグラン・ハースとの共著）は、Routledge Book of the Year 2018 に選ばれ、2020 年に日本語訳が刊行された。2019 年から 2021 年にはスウェーデン首相直轄の国家イノベーション評議会のメンバーを務め、2023 年から 2024 年には国際地域学会（RSAI）の会長を務めた。専門は、地域開発、ソーシャルキャピタル、イノベーション、起業家精神、中山間地域など。